

学習内容報告書 フォーマット

学校名	富山県立高岡高等学校
授業者	2年普通科担任、学年主任、学年副主任、副担任

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

課題研究Ⅱ（SDGs および富山県内の課題に関するテーマ）

1-2. 学年

2年（2学期）

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な探究の時間

1-4. 単元の概要

<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs や「出前県庁しごと談義」で扱った事柄等をテーマとして課題を設定し、グループ研究または個人研究を行い、ポスターセッションで発表する。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の見聞、経験、観察、考えたことをもとに、問題を見つけ課題を設定する。 ・「出前県庁しごと談義」を通して、「ふるさと富山」に関心を持ち、課題を見つける。 ・研究の過程を通して、探究する態度と能力、コミュニケーション能力を育む。

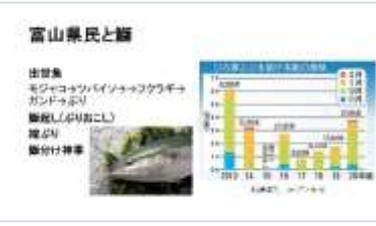
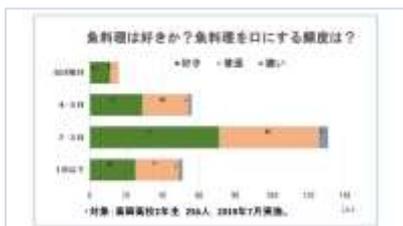
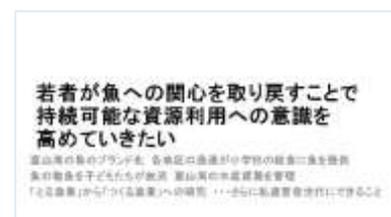
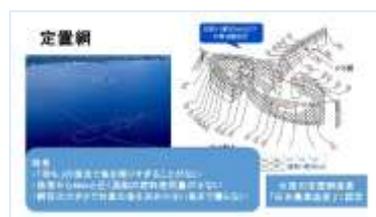
1-6. 育みたい資質や能力、態度

<ul style="list-style-type: none"> ・問題発見力、探究心、発想力。 ・情報収集や情報リテラシーなどのスキル。 ・レポートのまとめ方。 ・ポスターセッションでのコミュニケーション能力（疑問力と質問力）。

1-7. 単元の展開（全15時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	研究課題の設定	・グループは普通科5クラスを混合にして3～5人とする。
2	・興味あるテーマごとに分かれてのグループ分け、研究課題の案だしを行う。	・教師は各グループに指導助言する。(3グループを担当) ・「出前県庁しごと談義」(8講座。県庁職員の講義を聴講。9月3日実施)の内容も参考にする。
3	課題設定報告会 ・教室を分け、各グループ5分で課題設定の理由を発表、質疑応答をする。	・質問を促す。 ・考えた課題について、研究の進め方等を指導助言する。

<p>4 ～ 12</p>	<p>調査研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書籍、インターネット等での調査、アンケートの実施 ・研究レポートを作成する。 ・発表資料（①ポスターA0 1枚②研究概要）を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年の教員全員で各グループを巡回し助言する。 ・「課題研究テキスト」を参考に、まとめさせる。 ・担当教員のチェックを受ける。
<p>13 14 15</p>	<p>研究発表会（ポスターセッション）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6つの会場に分かれ、各グループ15分で発表、質疑応答を2回行う。 ・1年普通科、2年探究科学科の生徒が聴衆として参加する。 ・3つ以上の発表を聞き、評価表に記入する。 ・個人レポート（振り返りシート）を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・密を避け、発表する。 ・質問を促す。 ・評価表 ・個人レポート



2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

- ・伝えたい結論やメッセージとその根拠が、分かりやすく伝わるように、ポスターを作成する。
- ・図や写真、表や模式図を、効果的に使う。
- ・発表を聞き、積極的に質問をする。聴衆からの質問にわかりやすく説明する。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<ul style="list-style-type: none">・会場を 6 つの教室に分け、各グループ 15 分でポスターセッションによる発表、質疑応答を 2 回行う。・聴衆に 1 年普通科（これから課題研究に取り組む）、2 年探究科学科（すでに課題研究活動を学習済み）が参加するので、わかりやすい発表をし、どんな質問にも対応できるように研究内容をグループ内で共有しておく。・「課題研究 I」よりもテーマ設定が面白く、質疑応答も活発に行われていた。	<ul style="list-style-type: none">・密を避けて実施する・目標が共通なので、問題についての理解はできている。積極的な質問を促す。・質問の内容は評価しない。・教師は評価シートで評価する。

3. 今回の活動の自己評価

- ・「課題研究 I」を発展させ、自分たちの生活の中から課題設定をし、個人研究またはグループ研究で行った。生徒間で考えたり、検討できるため、教師は助言者としての立場に関わりやすくなり、教師主導になるのを避けられた。2 回目の課題研究となり、研究の方法、発表の方法、まとめ方は、それぞれに工夫が見られた。
- ・本単元終了後、富山県の海洋資源について研究したグループが校内での調査研究にとどまらず、外部講師へのインタビュー（氷見の魚問屋 松本氏）、フィールドワークを実施し、「富山の漁業の変遷と魚食文化」をテーマに第 8 回全国海洋教育サミット（2 月）で発表した。

4. 今後の課題

- ・教師が付きっきりで指導することはできない。自分たちで、問題発見、テーマを設定し検討できるが、ひとりよがりな研究にならないよう、適当な時期に適当な指導助言をしたい。研究の進め方のテキストとして、「課題研究テキスト」を校内で作成したので、生徒は参考にするが、200 人に対して教師がどのように関わるか、教師の指導方法、評価方法を工夫し、確立していきたい。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。